

私

は、30年ほど前に大
学病院で言語治療の
スタッフとして研修を受
けたことがあります。そ
の時私は、身長1mに満
たない一人の男の子のべ
ッドサイドに連れて行か
れ、「この子何歳やと思
う？まだ歩けないんや」
と教授に質問されました。
私は、見た目から、「1

歳半くらいですか」と答えると、
「そのぐらいに見えるやろ。だけ
ど、この子は4歳半なんや。虐待
を受けてたんや。人というのは身
を守るためには、成長も拒むこと
があるんや」とやりきれない表情
で話されたのを覚えています。

そ

れ以来私は、『子どもにはま
ず安心感の蓄積を』というこ
とを教育の方向性の一つにしてい
ます。子どもは、本能的に、「大
きくなりたい」、「賢くなりたい
」、「偉くなりたい」、「立派
になりたい」などといった思いを
持っています。しかし、成長が止
まってしまうほどの虐待を受けた
子どもや心の安心感が不十分な子
どもは、自己有用感や自己肯定感
などが非常に薄くなると考えられ
ます。また、それに伴い、人のこ

とまで思いやる余力もなくなるの
ではないでしょうか。

先日、私は八木中学校の研究発
表会に参加し、驚いたことがあり
ました。それは、全校生徒177
人による合唱でした。『全校合
唱』は簡単そうに思えますが、多
感な中学生、変声
期を迎えた生徒た
ち、縦社会を意識
しはじめる年代の
生徒が学級を超え、
学年を超えて心を一つにすること
は、とても大変なことです。

八

木中学校の生徒には、一人一
人が思いっきり声を出せる自
己肯定感や、ほかの生
徒の声と協調させなが
らハーモニーを奏でる
調整力などが備わって
いました。迫力ある歌
声とともに、自他を尊
重してはじめて見せら
れるその姿が私の心に
迫ってきて、とても感動しました。
神吉小学校の児童も卒業後、こ
の集団の中で思い切り自分をぶつ
けて欲しいと、心から願っていま
す。



(神吉小学校 校長

九笹 智資)

環・境・市・民

〜感激!

エコ発見

エコちゃん
—第23回—



森林は水源のかん養機能、
生態系の維持、地球温暖化防
止など多面的な機能を持ち、
人の生活になくはならない
役割を担っています。しかし
8割以上を森林が占める南丹
市にも、生活環境の変化や担
い手不足により手入れが行き
届かず、その役割が十分に果
たせない森林があります。



子どもた
ちの森での
活動を支援
する「森林
環境ネット
ワーク」を
主宰する用
澤さん。子
どものころ森で遊んだ体験を
生かし、多くの子どもたちに
森での遊びを通して、生きる
力を身に付けて欲しいと活動
を始められました。また近く

の里山の間伐や、つる払いな
ど実際に荒れた森の再生にも
力をそそいでおられます。

今回のエコジスト

用澤 修さん
(八木町船腰)



「私の家では、
薪ボイラーで給
湯したり、薪や
ペレットストー
ブを使ってエネルギーの中に
少しでも木質を使うように心
掛けています。個々の活動は
微力ながら一人でも多くの
人に森の現状を知ってもらいた
いと思っています。

今の生活は便利になりすぎ
ています。そこには便利さと
同じだけのマイナスの要素が
あり、さらにはイメージしき
れない何かがあるとも考えて
います。震災などで、今人間が
直面している現実を思うと、
この便利になりすぎた生活を
もう一度真剣に考え直さなけ
ればならないと思います。そ
して自然が昔から人間に与え
続けてくれた恵みに、多くの
人が気付かなければならないの
ではないでしょうか。(環境課)